

編集後記

『10月23日、開催国のニュージーランドがフランスを8対7で破り、第1回大会以来24年ぶりに優勝をかざった。』

これ、何のことかお判りになりますか？

9月9日から約2ヶ月にわたり、ニュージーランド各地で実施されてきた、第7回ラグビーワールドカップのことです。

3月11日の東日本大震災から遡ること約1ヶ月前の2月22日12時51分、ニュージーランド・クライストチャーチを中心とした地震があり多くの死傷者がでた。この大震災にも負けずに、2011年ラグビーワールドカップがニュージーランドで成功裏に終了できたことは、本当に喜ばしいかぎりであります。このことには、大会関係者は勿論、ニュージーランド国民に敬意を表するとともに、この大会が契機になり復興への加速剤になることを切に願っています。

さて、このラグビーについて、残念ながら我が国では、野球、サッカーほどメジャーなスポーツにはなりきってはいませんが、ラグビーは1チーム15人が一丸となって、ボールを守り・つないで相手の陣地にボールを置く（トライ）球技です。

私の住んでいる北関東のR市には、R大学があり、そこに関東大学リーグ1部に所属しているラグビー部があります。このラグビー部が、地域貢献・地域交流の場として、1994年に地域ラグビークラブを創設し、地域の子供たちに対し、ボランティアで勝つラグビーではなく、楽しむラグビーを中心に教えていただいていた。このラグビークラブは、当時の監督曰く「ドラえもんの空き地のようなみんなが集まってくる場所」であり、ラグビーは基よりバーベキューや飲み会を実施するなど、地域交流の核となり子どもたちに限らず親たちも含め、地域の仲間とともに楽しい時間を過ごすことができ、R大学ラグビー部には大感謝です。

次にラグビー関連ワードを紹介させていただきます。先ず始めに、『ONE FOR ALL, All FOR ONE（ワンフォーオール・オールフォーワン）（一人はみんなのために、みんなは一人（勝利）のために）の精神』や、『NO SIDE（ノーサイド）の精神（ラグビーでは試合終了の合図をノーサイドといい、激しく戦った双方のプレーヤーが試合終了とともにどちらのサイドもなくなること。）』などがありますが、ラグビーというスポーツがそれぞれの個性を生かし、足の速い子・遅い子、体の大きい子・小さい子等々・・・、いろんな個性の子にそれぞれの役割があり、みんながそれぞれの役割を果たし、足りないところはお互いがフォローしあって、個人ではなくみんなで得点するなど、みんなと一緒に楽しめるスポーツであり、私見ではありますが子供たちが最初に親しむスポーツとしては一番ではないかと思えます。

この、ラグビーワールドカップが2019年には日本で開催されます。その時までには、『ジャパン』が少しでも強くなり、ラグビーが日本でもメジャーなスポーツになっていることを、一人のファンとして切に願いつつ、私見だらけの雑文をここで終わらせていただきます。

みなさま、季節の変わり目につき体調管理が大変かとは存じますが、呉々もお躰ご自愛くださいませ。

（総務部次長 井嶋 哲男）